

史学専攻東洋史学分野への進学を希望する皆さんへ

本分野では、「東アジア史」と「中東・イスラーム世界史」を2つの大きな柱とし、研究指導にあたっています。文学研究科パンフレットにおいて既に説明していますが、以下、この2つの「重点領域」について、さらに具体的に説明します。

〈東アジア史〉

中国および中華世界（台湾や華僑・華人社会を含む）の歴史を中心に扱っています。専任教員として岩間一弘（東アジア近現代史・食の文化交流史・中国都市史）と五味知子（中国近世・近代史、ジェンダー史）が指導にあたるほか、清末政治外交史、医療・教育史、先秦・秦漢文化史などを専門とする非常勤教員が授業を担当しています。とくに、文献史料を用いた近世・近現代中国の社会・文化史の研究に取り組むには良好な環境が整っています。

近年に本分野に在籍した修士課程・博士課程の大学院生が取り組んだ研究テーマは、清末の中国知識人の南洋（東南アジア）観、治外法権をめぐる北京政府の外交、対日協力政権のプロパガンダ、民国期上海の清真料理（ハラール）、近代浙江省の茶産業と茶業教育、唐代における女性の社会的地位、魏晋南北朝時代の政治経済史、明清時代の科挙と地域社会、植民地期台湾のパイン産業、中国古代の神仙・医薬思想など多岐にわたります。

このほかにも、中国の社会・文化史を中心に、日中関係史、国際交流史、政治経済史、華僑・華人史、中国古代の文化・思想史など、対応できるテーマは少なくありません。また、東アジア研究は多くの学問領域で活発に進められており、他専攻・他研究科の授業に参加することもできます。中国・台湾・シンガポールなどに研究留学して、現地調査に挑む方も少なくありません。

情熱をもって積極的に研究活動を推進できる方々にお会いできることを楽し

みにしています。

〈中東・イスラーム世界史〉

イスラーム世界は広大な歴史世界ですが、特にアラブ地域の歴史とオスマン帝国史に力を注いでいます。長谷部史彦（アラブ中近世史、地中海交流史）と藤木健二（オスマン帝国史・中東都市社会史）に加えて、文学部東洋史学専攻専任教員の勝沼聡（近現代中東社会史・アラブ近現代史）も講義を担当し、専門的な指導に尽力します。

上記の指導担当者たちが強い関心をもち、指導や対応が可能な中東・イスラーム世界史研究のテーマを列挙すれば、以下のとおりです。

すなわち、都市の空間とアイデア、社会的エリート（ウラマー・遠隔地商人・スーフィー教団長、「生ける聖者」など）、アーヤーン（地方名士）と地方社会、社会的結合、同職組合と職人、生産と流通、物価と市場動向、民衆運動と政治文化、学知と直観知の伝達、民衆文化、マイノリティと周縁民、イスラームの王朝と王権、イスラーム法と社会、イスラーム法廷の記録と運営、政治的な言説と表象、軍人と軍隊、異文化交流・認識、外交と戦争、ワクフ（寄進）、慈善と救貧、自然災害、食糧問題と飢饉、地中海・インド洋交流圏、旅と交流、聖地参詣、海港と河港、族的結合、遊牧文化、家畜と人間、奴隷、宦官、植民地支配と抵抗、植民地主義的開発の影響と対応、ナショナリズムと民族運動、パレスチナ問題、監獄制度、疫病と疾病観、医療と衛生、近代ジャーナリズム、近代的教育・知識人、西欧的学知の受容と変容、水利灌漑と農村社会、聖者崇敬、スーフィズム、暦、遊びと娯楽、コーヒーと喫煙、演劇と語り物、恋愛論、英雄伝と説話文学、アラビア語やオスマン語の歴史叙述などです。

以上のテーマの何れかに興味をもち、専門研究への強い意欲に溢れる諸君がここに集うことを大いに期待しています。